

ユニット2 自国^{じこく}のことを紹介しよう

●ユニットのねらい

他者^{たしや}の学びへの貢献^{こうけん}、相互^{あひたひ}理解、デジタル (ICT) ・リテラシー、オンライン・プレゼンテーション

●考えてみよう1

・おおぜいの人の前で、自国^{じこく}に関するプレゼンテーションをしたことがありますか。
その時、どんなことを話しましたか？

・自分とは違う文化圏^{けん}の人に、自国^{じこく}のことを説明したことがありますか。
その時、難しかったことがありますか。

・あなたの国に行ってみたいと思っている（留学や観光で）学生を対象にして、あなたの国や出身大学のことを紹介することになりました。どんなことを紹介したいですか。



●考えてみよう2

留学生のAさんが、自国^{じこく}紹介のプレゼンテーションをしていますが、うまくいっていないようです。
どんな問題があると思いますか？



今日は、私の国の選挙^{せんきょ}制度についてご紹介します。私の国の国政^{こくせい}選挙^{せんきょ}は4年毎に行われます。途中解散はないので、国会議員は、4年の任期^{にんき}が保障^{ほしょう}されています。国会議員の定数^{ていすう}は300人で、そのうち253人は、...

●考えてみよう3

・オンライン・プレゼンテーションは、対面^{たいめん}と比べて、どんな違いがありますか。

・オンラインでプレゼンテーションをするとき、どんなことに気をつけるといいですか。

●コラム —プレゼンテーション、対面^(たいめん)とオンラインの違い—

【対面^(たいめん)】

- ・話し手は、聴く人(聞き手)の方を向いて直接語りかけることができます。
- ・話し手は、聞き手の反応^(はんのう)がじかに感じられます。
- ・話し手は、話す場所や聞き手などに合わせて、声の大きさやジェスチャーなどを調整する必要があります。大きな部屋で話し手と聞き手との間に距離^(きょり)がある場合は、大きな声を出さなければならないでしょう。また、マイクが使える場合とそうでない場合とで声の出し方は異なるでしょう。
- ・プレゼンテーションが行われる場所や使用機器^(きき)、聴衆^(ちゆうしゆ)の人数^(にんずう)などによって、PPTなどの資料が見づらいことがあります。



【オンライン】

- ・話し手は、聞き手と同じ空間^(くうかん)にいないため、聞き手に直接語りかけるのが難しいです。また、聞き手の反応^(はんのう)が分かりづらいので、不安になりやすいです。聞き手と同じ空間にいない、聞き手と目が合わないので、緊張^(きんちやう)しないですむという人もいます。
- ・話し手が聞き手に問いかけても返答^(へんた)をもらいにくく、一方向^(いちほうこう)になりやすいです。
- ・通信状況が悪ければ映像^(えいぞう)や音声が遅れたり乱^(みだ)れたりして、聞き手に伝わりにくいことがあります。
- ・聞き手は自分の端末^(たんまつ)でPPTなどの資料を見ることができるので、内容に集中しやすいという利点^(りてん)があります。



●プロローグ

オンラインで世界中^(せかいじゅう)の人と簡単に交流できるようになり、自分とは違う文化圏^(けん)の人に、自国^(じこく)のことを説明する機会が身近^(みじか)になりました。プレゼンテーションとは、本来、一方向^(いちほうこう)ではなく、話し手と聞き手とが一緒に作り上げる、相互行為^(そうごこうい)によるものです。ですから、話し手が一方的に自分の話したいことを話すのではなく、話し手は、聞き手の属性^(そくせい)や興味などをよく考えて、話の内容や構成を工夫する必要があります。また、オンラインでプレゼンテーションをする際には、その特徴^(とくちょう)をよく理解して臨^(のぞ)むとうまくいくでしょう。

●目標^{もくひょう}を立てよう

このユニットでは、あなたの国に興味・関心を持つ学生に自国^{じこく}のことを紹介します。自国^{じこく}のことを他者^{たしや}に紹介するというタスクを通して、あらためて自国^{じこく}のことが学べると同時に、他者^{たしや}の学びにも貢献^{こうけん}することができます。調べたことや伝えたいことを整理して、聞き手に上手に伝えましょう。

- 1) 自分が目標としたいパフォーマンスを想像し、1~5の中から今回目標にしたい点を選び、「私の目標」のところに✓を入れてください。また、自分で加えたい目標があれば、下に書いてください。
- 2) 選んだ目標について、今、それぞれどのくらいできるのかを考えて、「事前評価」のところに「◎(よくてできる)」「○(できる)」「△(まあまあできる)」「×(できない)」「?(できるかどうかわからない)」から選んで書いてください。

	目標	私の目標	事前評価
1	聞き手に伝わりやすい(聞き手が理解しやすい、情報量や内容が適切な)スライドを作ることができる。		
2	トピックについて、あらかじめ用意したスライドを利用しながら、分かりやすく、詳しく説明をすることができる。		
3	プレゼンテーションの内容や話し方を聞き手に合わせて用意したり、工夫したりできる。		
4	オンラインの特徴を理解したうえで、聞き手を惹きつけるプレゼンテーションをすることができる。		
5	プレゼンテーションの内容に関する聞き手の質問やコメントに、ある程度流暢に、自然に対応することができる。		
6			
7			



伝えるとき、聞き手とうまく目を合わせて、説得力(せつてくりょく)を出したいです。



クラスメートの話を聞いて、上手に質問したいです。

●表現やストラテジーについて考えてみよう

1. オンライン・プレゼンテーションで、次のようなときどうしたらいいでしょうか。アイデアを出し合いましょう。

- ① 聞き手を惹きつけたい
- ② 発表時間をうまく管理したい

③ 質疑応答で難しい言葉や情報を説明したい

2. 次のような状況のとき、どんな表現を使うといいでしょうか。アイデアを出し合ひましょう。

- ① 発表を始める(画面共有を開始、確認する)
- ② 聞き手に同意を求める
- ③ 聞き手に問いかける、クイズを出す
- ④ 質疑応答で準備していない質問をされてうまく答えられないとき

●準備をしよう

1) 聴衆を分析しよう

プレゼンテーションでまず準備すべきことは、誰を対象にそのプレゼンテーションを行うのかということ、つまり、「聴衆分析」を行うことが大切です。聞き手によって、話すべき内容や構成が変わるからです。プレゼンテーションの前に、聞き手について以下のことを調べておきましょう。

- ・ 属性: 職業、年代、性別、専攻、住んでいる地域など
- ・ 人数
- ・ 興味や関心事: テーマについてどの程度興味や関心を持っていそうか、どんなことに興味や関心を持っていそうか
- ・ 予備知識: テーマについてどの程度知っていそうか

属性	
人数	
興味・関心事	
予備知識	

2) 発表テーマを考えよう

どのようなテーマで発表しますか? テーマを決めましょう。

👉 テーマを決めるときに使える方法:

KJ法^{*1}、マインドマップ、インターネットで情報を調べる...

※1 KJ法とは、文化人類学者、川喜田二郎氏が考えたデータをまとめる手法で、カードにアイデアを書いて、カードを整理、統合して、図解します。

3) アイディアを整理しよう

- ① どんなテーマを取り上げようと思っていますか。
- ② どうしてそのテーマを取り上げたいのですか。
- ③ 聞き手に一番伝えたいことはどんなことですか。
- ④ プレゼンテーションに参加することで、聞き手にはどんなメリットがありますか。
- ⑤ どんな内容にしようと思っていますか。できるだけ具体的に書いてください。
- ⑥ プレゼンテーションの時、聞き手を惹きつけるためにどんな工夫をしようと思っていますか。

4) アウトラインを作成しよう

1. わかりやすい発表をするために、何をどんな順番で言ったらいいと思いますか。
発表のアウトラインを考えましょう。

はじめ:

1)

2)

3)

おわり:

参考(さんこう)文献(ぶんげん):

2. クラスメートとお互いのアウトラインの内容を確認しましょう。

5) スライドと原稿^{げんこう}を作成しよう

プレゼンテーションで使用するスライドと発表原稿^{げんこう}を作りましょう。

📌 スライド作成時の注意点

- ・1枚のスライドに情報をつめこみ過ぎないようにしましょう。
- ・発表時間に合わせてスライドの枚数を調整しましょう。「1枚=30秒~1分」が目安^{めやす}です
- ・箇条^{かじょう}書きや名詞句^{めいしく}で簡潔^{かんけつ}にしましょう。データがある場合は、表やグラフを使いましょう。
- ・字の大きさやフォント、色は見やすいものを選びましょう。
- ・写真やデータ、引用部分に書誌^{しよし}情報や参考ウェブサイトのURLを書くなど、信頼性、説得力^{せつとくりょく}のあるものにしましょう。
- ・イラストやアニメーションは、目的や必要性に応じて効果的に使いましょう。

📌 原稿^{げんこう}作成時の注意点

- ・「1分間=250字」が目安^{めやす}です。

●リハーサルをしよう

クラスメートに聴衆^{ちようしゅう}になってもらって、プレゼンテーションをしてみましょう。うまくいかなかったところは修正^{しゅうせい}しましょう。

●プレゼンテーションをしよう

実際に自國^{じこく}の紹介をしましょう。そして、クラスメートのプレゼンテーションに聴衆^{ちようしゅう}参加しましょう。

●活動をふり返ろう

セッションが終わったら、ふり返りをしましょう。録音や録画をした人は、それを見たり聞いたりしながら、ふり返ってみましょう。